

声明 イスラエル・ハマスは即時停戦を

昨年10月7日ハマスの奇襲攻撃に対するイスラエルの戦闘開始時に、歴史教育者協議会（以下歴教協）は、10月17日「イスラエルとハマスの即時停戦を求める」事務局長談話を発表しました。それ以後各県歴教協はパレスチナ問題学習会を開催し、会員はこの問題を授業で取り上げ、子どもたちと共に考えてきました。

パレスチナ問題は長い歴史があります。1922年から48年まではイギリス委任統治領、1948年にはイスラエルが建国され第一次中東戦争が起こり、70万人のパレスチナのアラブ人が難民となりました。1967年にイスラエルは占領地を拡大し西岸・ガザ地区がイスラエルの占領地になりました。1993年にはオスロ合意がなされ和平交渉が開始されましたが、交渉は決裂しました。2006年にガザ封鎖が開始されパレスチナは分裂し、ガザ地区はハマスの実効支配が始まりました。08年、14年、21年と攻撃は繰り返され、23年のガザ攻撃となりました。

パレスチナ自治区ガザはイスラエルによる物資や燃料の運搬の制限や壁による封鎖で「天井のない監獄」といわれ、安全な場所など存在しません。イスラエルは「ハマスを殲滅」を掲げ、病院・学校・避難所など民間施設を空爆していますが、その行為は国際人道法違反です。報復戦争と市民の殺りくで「平和」をつくることができないことは、76年にわたるイスラエルとパレスチナの歴史が証明しています。

イスラエル戦争開始から10か月がたち、ガザの惨状は国連を中心に「ジェノサイド（集団虐殺）」と認定され、国連や世界中から「イスラエルは即時停戦」の声が上がっています。5月20日、国際刑事裁判所（ICC）は、イスラエルのネタニヤフ首相や国防相、ハマスの指導者の逮捕状を請求しました。一方、アメリカのバイデン大統領は「いまガザ地区で起きていることはジェノサイドではない。」とICCに抗議しています。5月24日国際司法裁判所（IJC）は、イスラエルに対しパレスチナ自治区ラファへ軍事攻撃中止を求める暫定措置（仮処分）を出しました。

戦争の最大の被害者は子どもたちです。ガザ住民は220万ですが、ガザ保健省はこの間の戦闘での犠牲者は3万8243人（7月10日現在）で、その半数以上が女性と子どもです。負傷者数は7万6500人を超えています。国連児童基金は今年2月時点の推計で約1万7000人の子どもが親を失ったり、家族が離散していると報告しました。また支援の制限によりガザは飢餓に直面し、ほぼすべての学校が機能を停止し、教育を受ける権利が侵害されています。こうした状況を受け、国連は紛争下の子どもの権利保護に関する年次報告で、イスラエル軍をハマスと共に、人権を侵害する国・組織リストに加えました。

国連安全保障理事会がイスラエルとハマスの停戦案の受け入れと履行をせまる決議案を出しています。7月に入りイスラエルのガザ攻撃は、避難所・病院・学校などへの攻撃が激化しています。衛生施設も破壊され、衛生状態悪化と猛暑でガザ住民の間には様々な病気が広がっています。歴教協は、ガザの人々がこれ以上犠牲にならないことを願い、両者がこの決議を受け入れ、即時停戦することを訴えます。

2024年8月2日

一般社団法人 歴史教育者協議会 社員総会・会員集会